

## 国際マネーフローレポート No.84

# 日本の海外直接投資の地域別動向

### 【目次】

- . 今月のトピックス  
~ 日本の海外直接投資の地域別動向
- . 国際金融市場、国際マネーフローの動向
  - 1. 主要先進国の金利と為替相場  
政策金利 長期金利 金利差と為替相場  
実質実効為替相場 株価、実質 GDP 成長率、インフレ率
  - 2. 世界の流動性  
世界の外貨準備 世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高  
主要先進国合計のマネーサプライ
  - 3. 中国とロシアの貿易収支  
中国の貿易収支 ロシアの貿易収支
  - 4. オフバランス取引での円ポジション  
シカゴ通貨先物市場での投機筋による円のネットポジション
  - 5. 日本をとりまく資本移動  
対外証券投資 対内証券投資
  - 6. 米国をとりまく証券投資  
対米・対外証券投資 海外資本の米国債保有残高
  - 7. 世界的不均衡  
米国の経常収支赤字 米国の貿易赤字 ドル相場
  - 8. アジアの株価・為替相場  
株価 為替相場

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 塚田 裕昭 ( chosa-report@murc.jp )

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

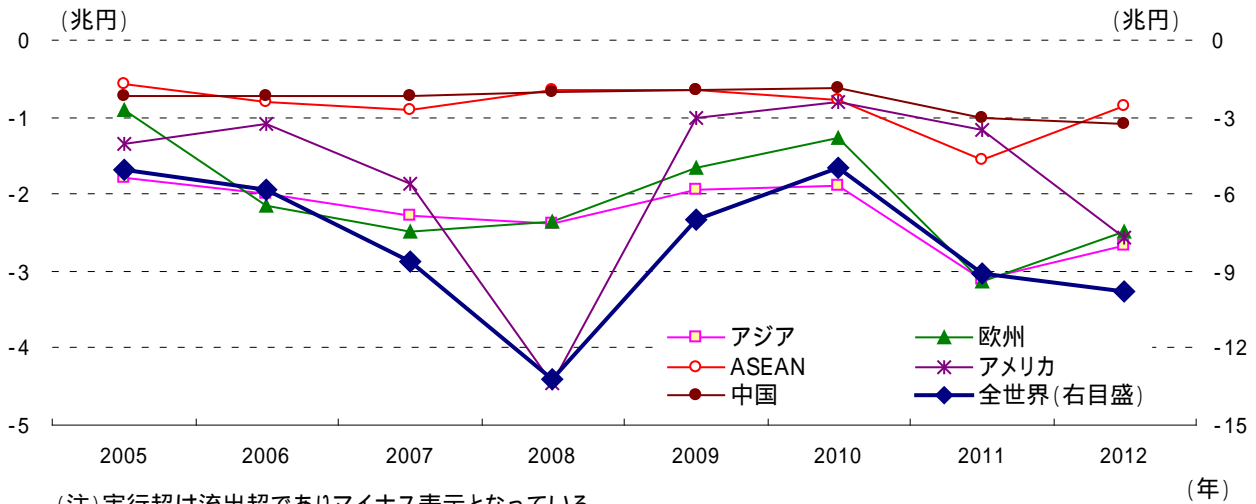
TEL: 03-6733-1070

## ．今月のトピックス～日本の海外直接投資の地域別動向

2012年の日本の海外直接投資は、9.8兆円の実行（流出）超となり、前年に比べ1.2兆円実行超幅（回収 - 実行）が拡大した（図 -1）。

地域別にみると、対アジア向けが2.7兆円の実行超（前年比0.4兆円減）、対欧州向けが2.5兆円の実行超（前年比0.7兆円減）と実行超過幅が縮小する一方、対アメリカ向けが2.6兆円の実行超（前年比1.4兆円増）と実行超過幅が大幅に拡大した。2012年の日本の海外直接投資の実行超幅の拡大は、アメリカ向け投資の拡大に負っている。

図 -1 日本の海外直接投資

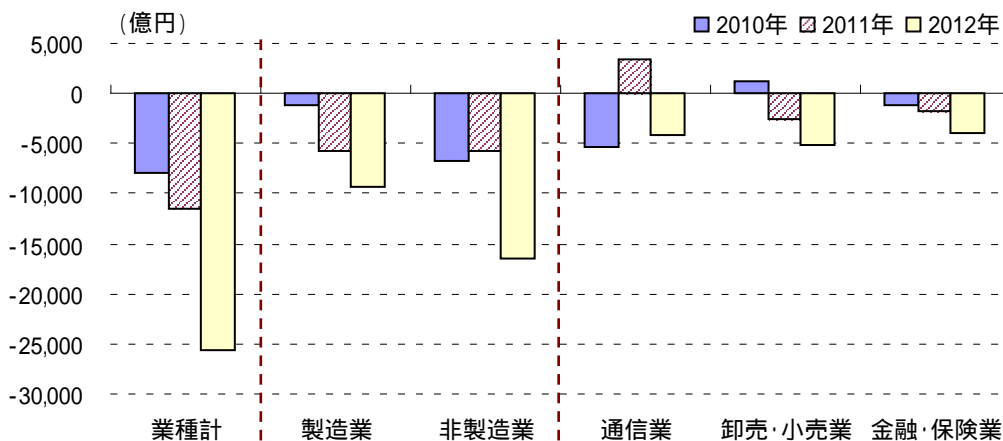


(注)実行超は流出超でありマイナス表示となっている

(出所)財務省、日本銀行「対外・対内直接投資」

対アメリカ向け直接投資を業種別に見ると非製造業の比率が高く、2012年は通信業、卸売・小売業、金融・保険業の投資が拡大した（図 -2）。

図 -2 対アメリカ直接投資の内訳

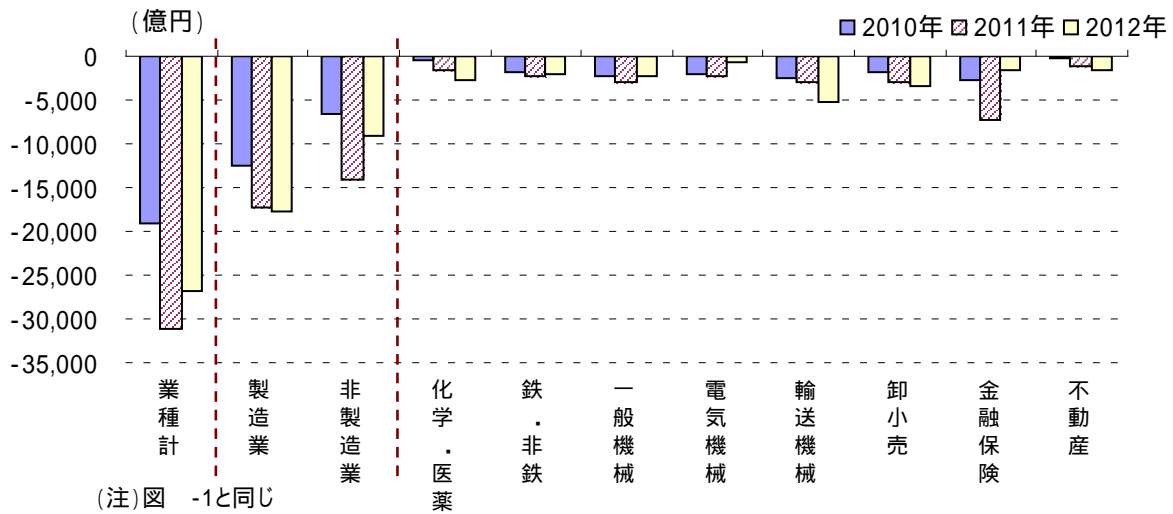


(注)図 -1と同じ

(出所)財務省、日本銀行「対外・対内直接投資」

一方、対アジア向け直接投資は製造業の比率が高く、2012年は製造業の実行超幅が2011年に比べ拡大したが、非製造業が大幅に縮小したためトータルでは実行超幅が縮小した。内訳を見ると、製造業では、輸送機械器具、化学・医薬などが大きく拡大している（図-3）。一方、非製造業では金融・保険業が前年に比べて大幅に縮小した。もっとも、大きく縮小したといっても、前年の水準が非常に高かったゆえであり、非製造業の2012年のアジア向け直接投資の大幅な縮小は、2011年に金融・保険の投資が大きく拡大したことが効いたと言える。

図 -3 対アジア直接投資の内訳

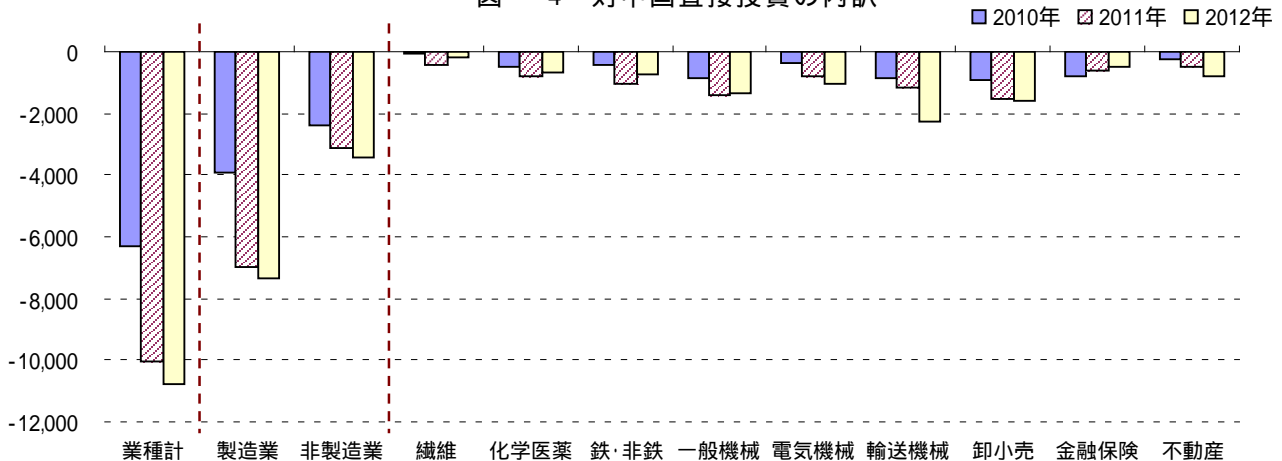


(注) 図 -1と同じ

(出所) 財務省、日本銀行「対外・対内直接投資」

アジア向け直接投資の実行超幅は2012年に縮小したが、国別に見てみると、中国向け直接投資は2012年に実行超幅が拡大している（図-1）。業種別では輸送機械器具の拡大が大きい（図-4）。2012年は尖閣問題などあり、企業が対中投資を敬遠するようになるのではといった懸念が生じた。2012年の数字を見るかぎり、対中投資が減少するという事態にはなっていないが、前年に比べ伸びは大きく鈍っている。

図 -4 対中国直接投資の内訳



(注) 図 -1と同じ

(出所) 財務省、日本銀行「対外・対内直接投資」

## ．国際金融市場、国際マネーフローの動向

### 1 ．主要先進国の金利と為替相場～ E C B が政策金利を引き下げ

#### 政策金利

##### ユーロ圏

- ・ECB(欧州中央銀行)は、5月2日の理事会で政策金利(リファイナンス金利)を0.25%引き下げ、0.5%とした(図-1)。政策金利の引き下げは10ヶ月振りとなる。

##### 英国

- ・BOE(イングランド銀行)は、5月8、9日のMPC会合で政策金利を0.5%に据え置いた。また、資産買入プログラムの買入規模を3,750億ポンドに据え置いた。

##### 米国

- ・FRB(連邦準備制度理事会)は4月30日、5月1日に開催したFOMCで、 Mortgage担保債券(月額400億ドル)と国債(同450億ドル)の買い入れを継続することを決定した。また、フェデラルファンド金利誘導目標水準を0~0.25%に据え置くことを決定した。

##### 日本

- ・日本銀行は4月3、4日の金融政策決定会合で、「量的・質的金融緩和」の導入を決定した。政策目標を無担保コールレートからマネタリーベースに変更し、「マネタリーベースが、年間約60~70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行う」こととした。また、長期国債の買い入れ残高を、保有残高が年間50兆円のペースで増加するよう拡大し、平均残存年限を現状の3年弱から7年程度に延長した。また、4月26日の同会合でも、政策の維持を決定した。

#### 長期金利(国債10年物利回り)

- ・4月の主要国の長期金利は、総じてみると上旬に低下した後、概ね横ばい圏での推移となった。5月に入って以降は、債券価格の高値警戒感もあり、金利水準は上昇してきている(図-2)。

図-1 政策金利

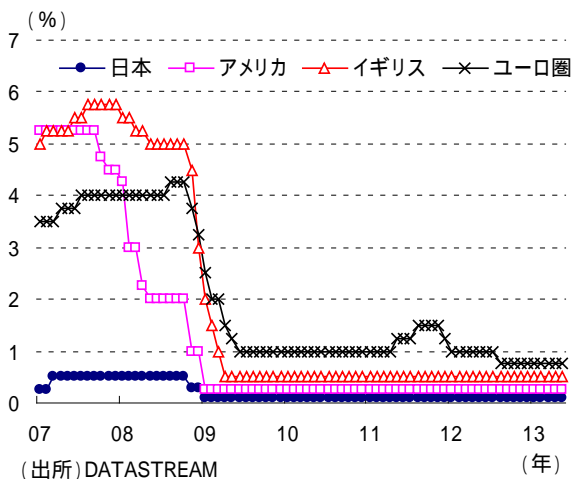
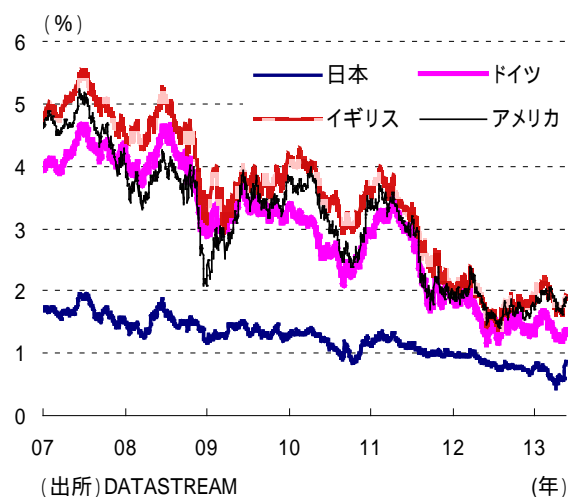


図-2 長期金利(国債10年物)



金利（3ヶ月物）差と為替相場

日本と米国

- ・4月の短期金利（3ヶ月物）は、ドル金利、円金利とも低下基調で推移した。金利差小幅縮小した（図 -3）。
- ・ドル円相場は、日銀の量的・質的金融緩和の導入を受けて円安が進んだ。

日本とユーロ圏

- ・昨年8月下旬以降、ユーロ金利が円金利を下回っている。4月は、円金利、ユーロ金利ともに低下し、金利差は小幅拡大した（図 -4）。
- ・ユーロ円相場は、日銀の量的・質的金融緩和の導入を受けて円安が進んだ。

日本と英国

- ・4月は、円金利、ポンド金利ともに低下基調で推移した。金利差はほぼ横ばいとなった（図 -5）。
- ・ポンド円相場は、日銀の量的・質的金融緩和の導入を受けて円安が進んだ。

実質実効為替相場

- ・4月の実質実効為替相場は、ユーロ、ポンドが上昇、ドル、円が下落した。

図 -3 米-日金利差とドル円相場



図 -4 ユーロ-日金利差とユーロ円相場

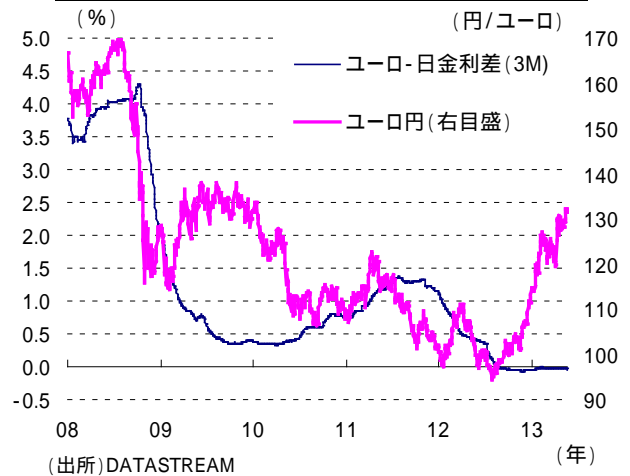


図 -5 英-日金利差とポンド円相場

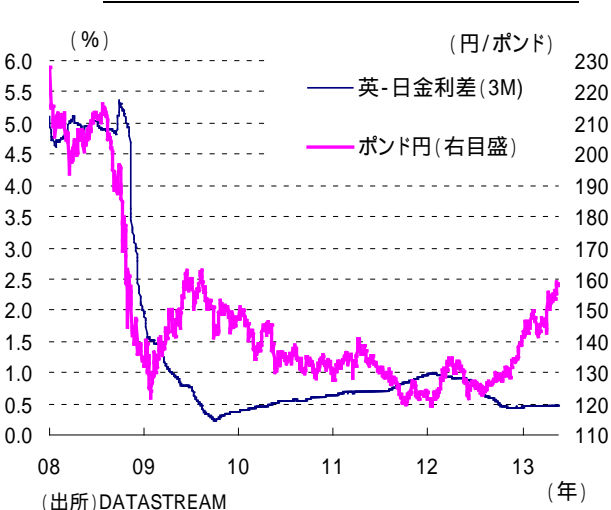
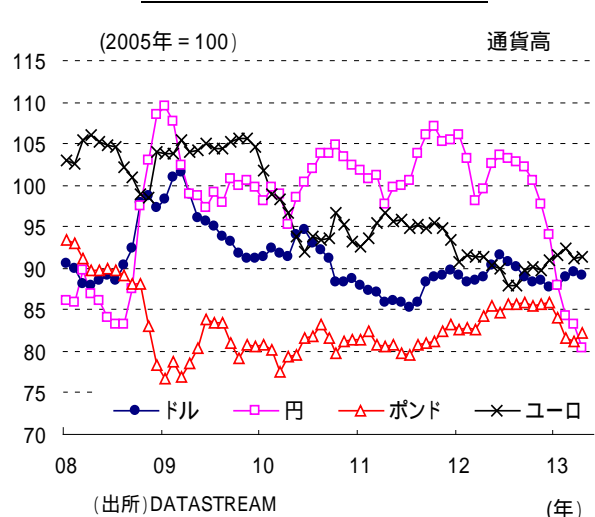


図 -6 実質実効為替相場



金利やマネーの動きを左右する株価、景気、インフレ率

【株価】

- ・国内株価は、4月は日銀の量的・質的金融緩和の導入を受けて大幅に上昇した。他の主要国の株価も世界的な金融緩和の拡大に反応して上昇基調で推移した（図 -7）。

【実質 GDP 成長率】

- ・1 - 3月期の実質 GDP 成長率（前期比年率）は、日、米、英でプラス、ユーロ圏は6四半期連続でマイナス成長となった（図 -8）。

【消費者物価上昇率】

- ・3月の消費者物価指数（総合）は、米、英、ユーロで前年比プラス、日本は同マイナスとなった（図 -9）。米、ユーロでは4月も前年比プラスが続いている。

【原油価格】

- ・4月の原油相場（WTI、期近物）は、需要見通しの下方修正や金市況の急落などを受けて、中旬にかけて下落したが、その後、上昇に転じた（図 -10）。

図 -7 株価

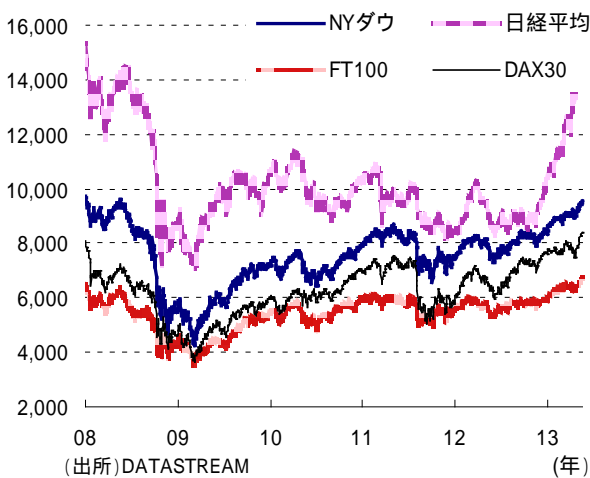


図 -8 実質 GDP 成長率

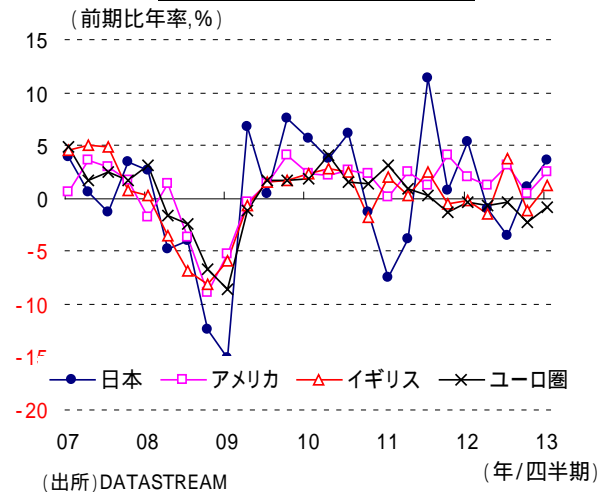


図 -9 消費者物価上昇率

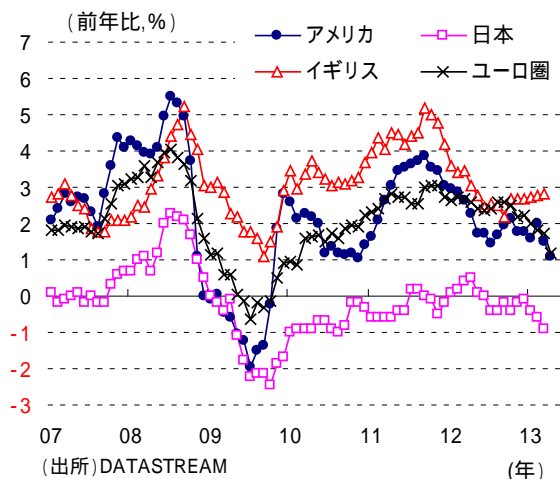


図 -10 原油価格 (WTI)



## 2. 世界の流動性～世界の外貨準備の伸びは縮小傾向

世界の外貨準備（通貨当局が保有する対外資産）

・世界の外貨準備は増加が続いているが、増加率は縮小傾向となっている（図 -11）。

アジア諸国の外貨準備は、このところ概ね横ばい圏で推移している（図 -12）。

世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高

・3月の世界の通貨当局による米国債投資残高（FRB カストディ残高）は、前年比で10.6%の増加となった（図 -13）。

主要先進国のマネーストック

・3月の日・米・ユーロ・イギリスのマネーストックは、いずれも前年比で増加した（図 -14）。日、米では、4月も増加が続いている。

図 -11 世界の外貨準備(伸び)

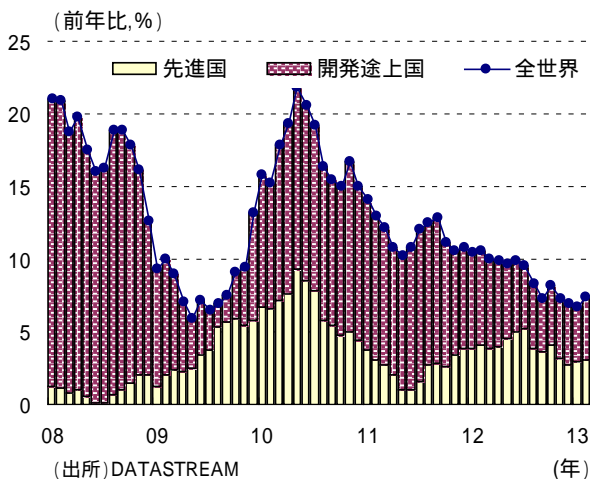


図 -12 アジア諸国の外貨準備(水準)

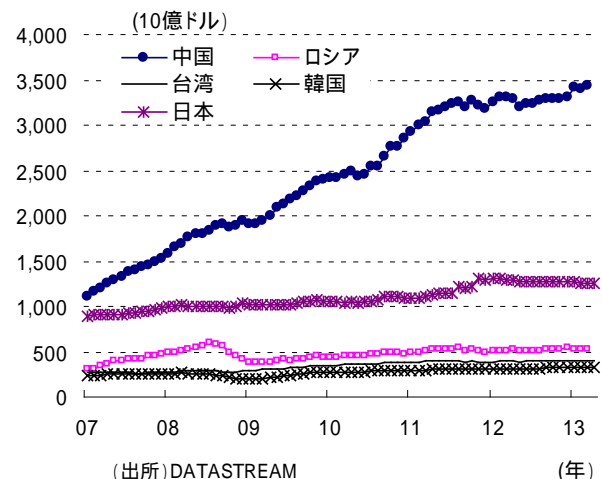


図 -13 通貨当局の対米投資と米国金利

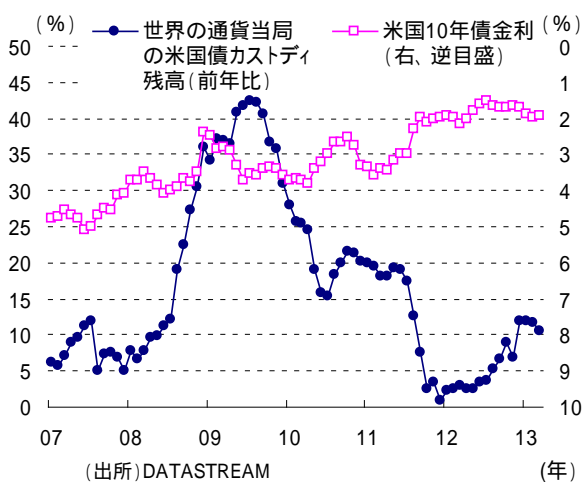
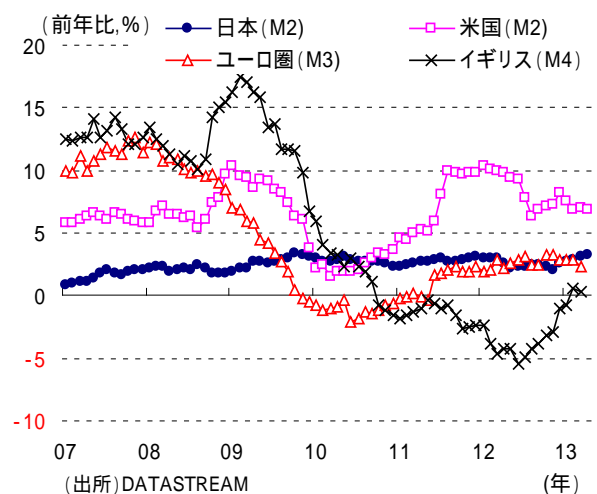


図 -14 先進国のマネーストックの伸び





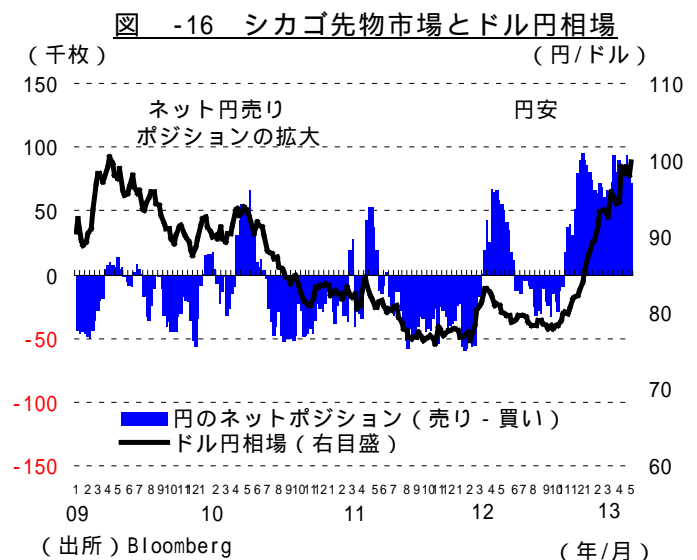
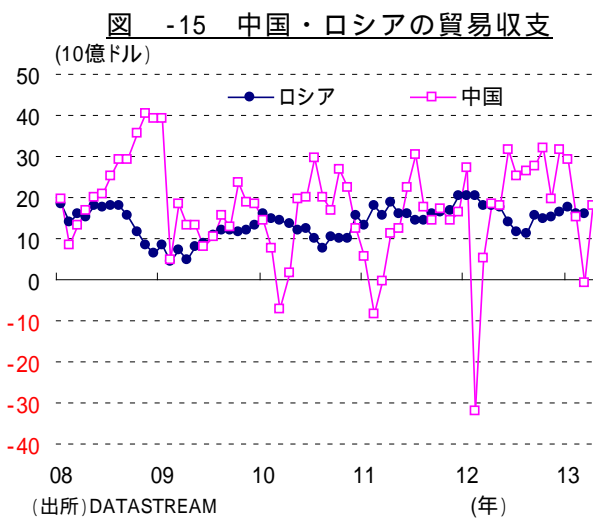
### 3. 中国とロシアの貿易収支～4月の中国の貿易収支は182億ドルの黒字

- ・4月の中国の貿易収支は前年比1.7%減の+182億ドルとなった(図-15)。
- ・3月のロシアの貿易黒字は、前年比11.2%減の161億ドルとなった。

### 4. オフバランス取引での円ポジション～シカゴでの円ポジションは売り超

シカゴ通貨先物市場での投機筋(非商業目的)による円のネットポジション

- ・シカゴ市場での円のネットポジションは10月下旬以降、売り超の状態が続いている。
- このところ、売りの超過額は、ほぼ一兆円程度となっている(図-16)。





## 5. 日本をとりまく資本移動～2013年4月は国内株式に大量の資金が流入

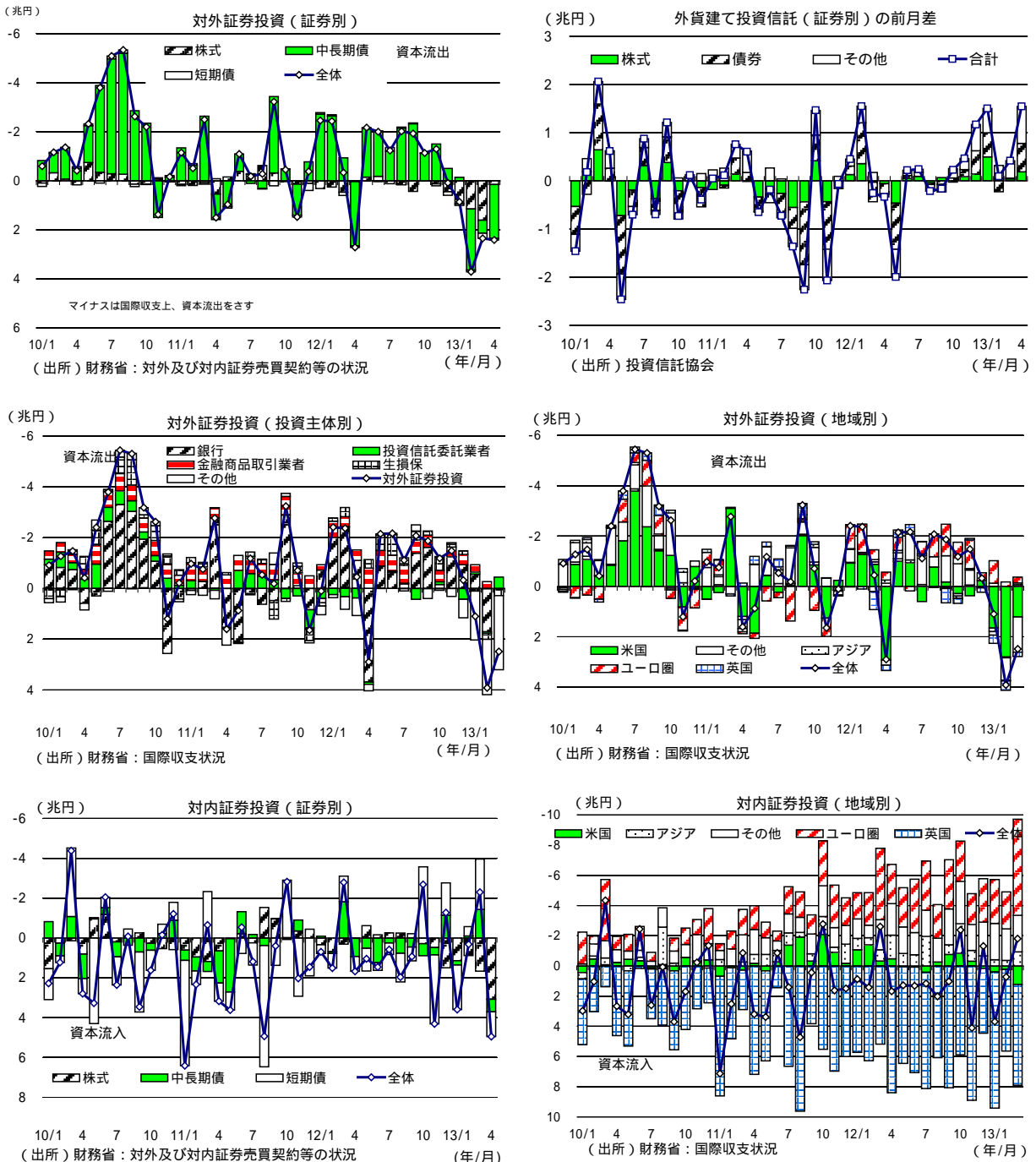
日本の対外証券投資（日本人投資家の海外資産への投資）

- ・4月は2兆4,119億円の流入超過（売り越し）となった。中長期債、株式、短期債のいずれもが売り越されて、国内に資金が還流した。
- ・4月の外貨建て投資信託残高は、株式型、債券型、その他型のいずれも増加し、トータルで前月に比べ1兆5,460億円の増加となった。

日本への対内証券投資（外国人投資家による対日証券投資）

- ・4月は4兆9,478億円の流入超過（買い越し）となった。株式が3兆円超買い越された他、中長期債、短期債も買い越されて、資金が国内に流入した。

図 -19 日本をとりまく証券投資



## 6. 米国をとりまく証券投資～3月は前月に続き2ヶ月連続で資金流出に

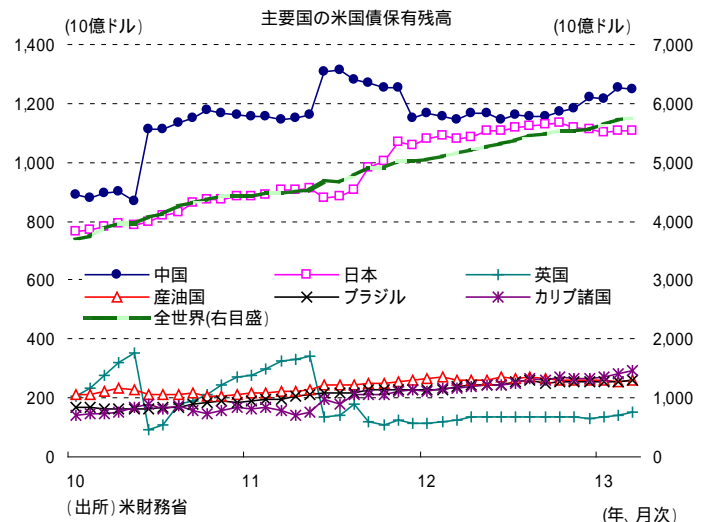
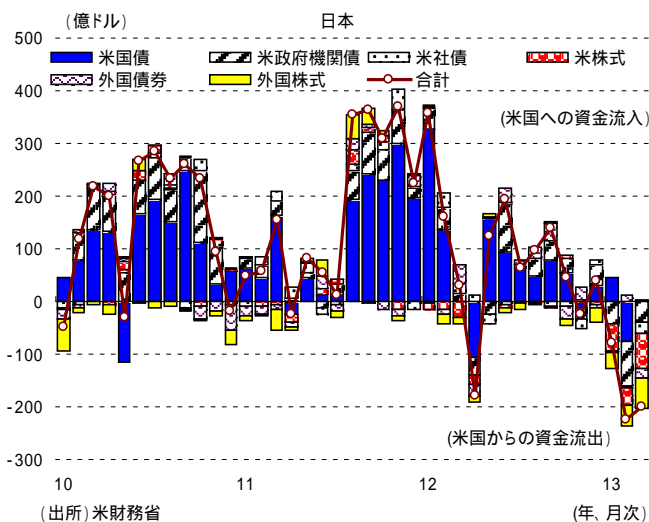
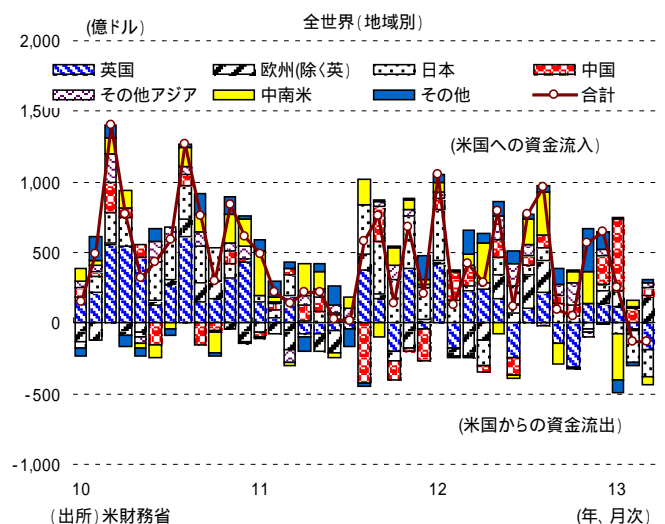
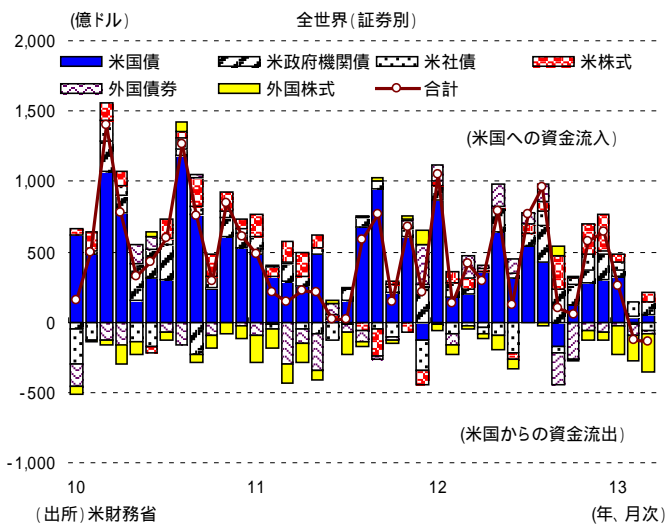
### 対米・対外証券投資

- ・3月の海外資本による対米証券投資は、ネットで153億ドルの買い越し（資金流入）となった。米社債が売り越されたが、米国債、政府機関債、株式が買い越された。
- ・一方、米国資本は外国証券を買い越して288億ドルの資金を流出させた。
- ・このため、3月は差し引き153億ドルの米国からの流出となった。

### 海外資本の米国債保有残高（ストック）

- ・3月の海外資本による米国債保有残高は5兆7,584億ドルと前月比で増加した。
- ・ストック残高を国・地域別にみると、大きい順に、中国1兆2,505億ドル、日本1兆1,050億ドル、カリブ諸国2,913億ドル、石油輸出国2,615億ドル、ブラジル2,586億ドルとなっている。

図 -20 対米・対外証券投資の動向



7. 世界的不均衡～米国の貿易赤字(3月)は前月比で縮小

米国の経常収支赤字（グローバルインバランス）

- ・2012年10-12月期の経常赤字は1,104億ドル（年率4,417億ドル、GDP比2.8%）と前期比で縮小した（図-21）。

米国の貿易赤字（国際収支・財サービスベース）

- ・2013年3月の貿易赤字は、388億ドル（季調値）と前月比で縮小した（図-22）。
- ・最大の赤字を計上している中国向けの貿易赤字は179億ドルと前年に比べて赤字幅が縮小した。

図-21 米国の経常収支

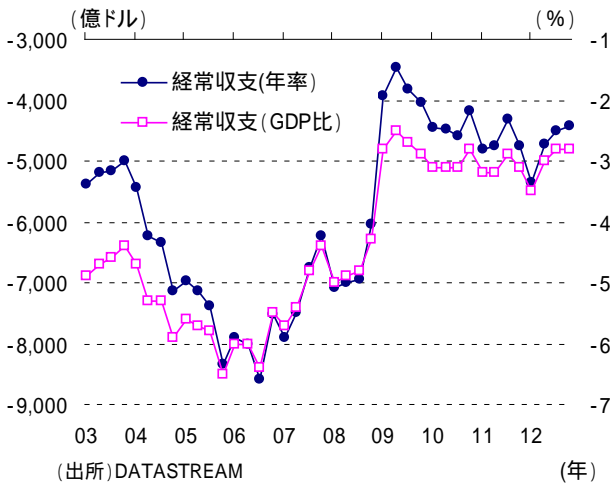
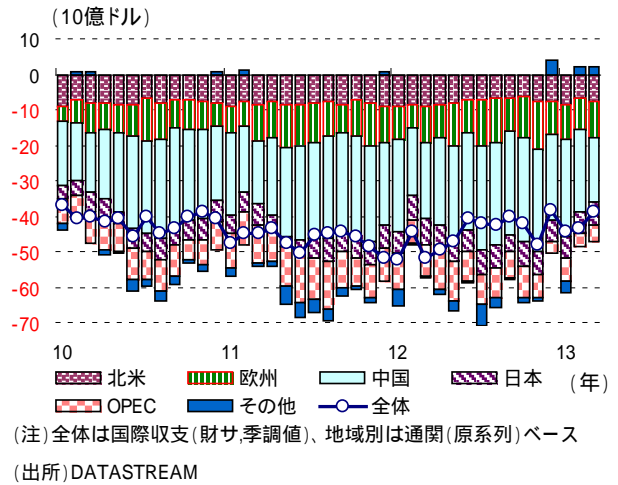


図-22 米国の貿易収支



ドル相場

- ・4月のドル相場は、対主要国で小幅ドル安となった（図-24）。

図-23 ドル相場（名目、月次）

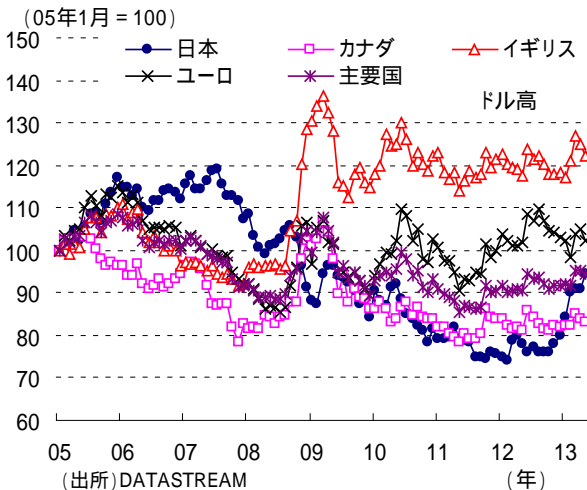
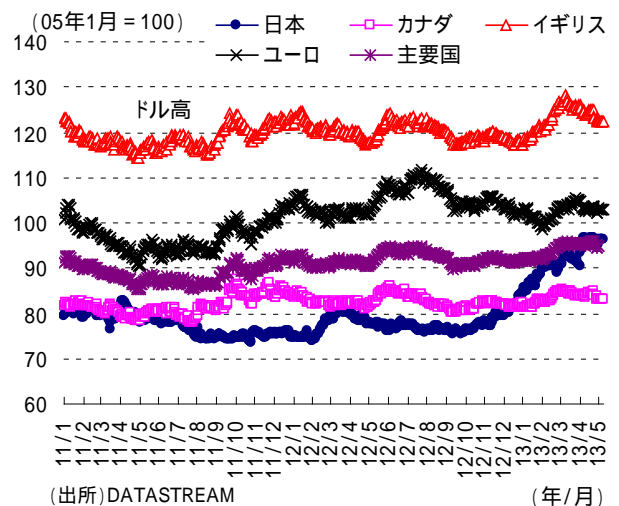


図-24 ドル相場（名目、日次）



## 8. アジアの株価・為替相場～4月のアジア株は総じて堅調に推移

### アジア主要国の株価

・4月のアジア株は、中国株、韓国株がやや軟調となったが、その後は総じて堅調な推移となった(図 -25)。

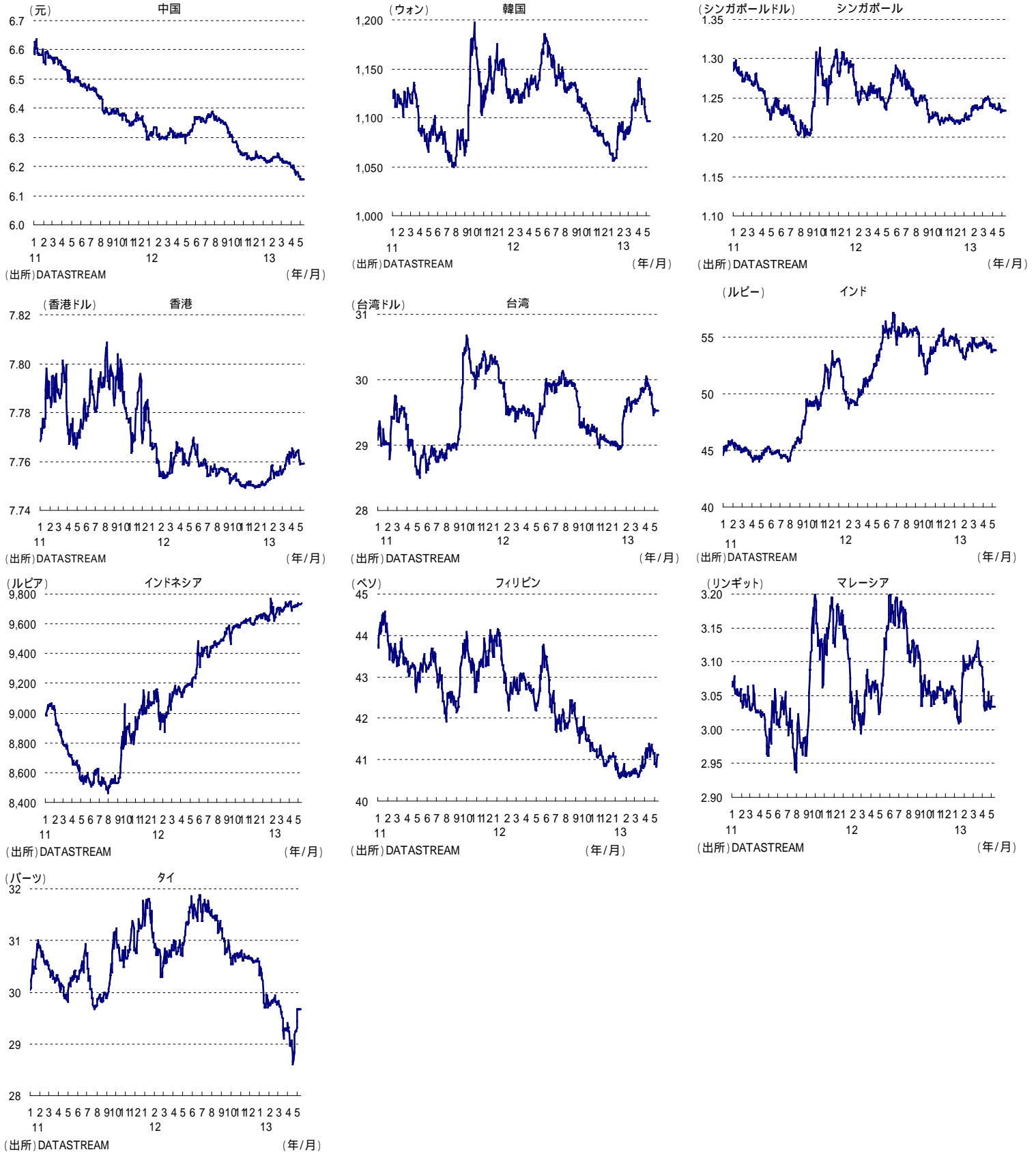
図 -25 アジアの株価



アジア主要国の為替相場

- ・ 4月のアジア通貨は、対ドルで、円安が進む一方、中国元、韓国ウォンなどで通貨高が進んだ（図 -26）。

図 -26 アジアの為替（対ドルレート）



- ご利用に際して -

- l 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- l また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- l 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- l 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ & コンサルティングと明記してください。
- l 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。